様式第３号

事務事業評価表（令和 2年度）

事業コード	1440	課コード	1604	会計種別	一般会計	予算の種類	□政策　■経常　□なし

１．事業の概要(PLAN)

(1)事業概要	①事業名	基本事業		実施計画への位置づけ	○有　○無
		個別事業	博物館施設設備の維持管理		
	②部課名	生涯学習部・鳥の博物館			
	③事業主体	●市　○その他（　）		④対象地区	□我孫子　□天王台　□湖北　□新木　□布佐　■全市
	⑤事業期間	平成20年度　～		⑥担当職員数	4 人　（換算人数　0.23 人）
	⑦事業費（人件費含む）	総事業費	0 千円	当該(開始)年度	（当　初）2,224 千円　（うち人件費　2,001 千円）
					（変更後）千円　（うち人件費　千円）
	⑧施策の位置づけ	施策コード	51103	重点プロジェクトへの位置づけ	重点なし
	基本計画地区別計画への位置づけ	○有　●無	部門別計画への位置づけ	（計画名）	生涯学習推進計画
(2)目的	施策目的・展開方向	学習する場の充実を図るため、公民館や図書館、鳥の博物館、白樺文学館などの施設の充実や、学習の拠点施設の整備を計画的に進めるとともに、学校施設など既存施設の有効活用を推進し、身近な場所で学習ができるようにします。また、湖北地区図書館の整備については、湖北台地区に立地し、老朽化への対応が急が		事業目的	博物館施設を来館者が安全に恒久的に利用できるように、経年変化により劣化した施設設備を補修し機能を維持する。省エネに配慮した設備に転換していく。
(3)事業内容	内　容	経年劣化した建物各所及び故障箇所の修繕等		当該年度執行計画	非常ロドアノブ修繕 博物館入口柱用看板取付枠設置委託
				当該年度活動結果指標	入館者数　単位　人　想定値　37,000　実績値

(4)達成目標(期待する成果)	達成目標(期待する成果)	指標種類	指　標	単位	(5)現況値	(6)目標値
当該年度	博物館利用者数の増加	間接	入館者数	人	33,195	37,000
令和 3年度	博物館利用者数の増加	間接	入館者数	人		39,000
令和 4年度	博物館利用者数の増加	間接	入館者数	人		40,000

(7)事業実施上の課題と対応		代替案検討	○有　●無

(8)施行事項

	平成31年度		令和 2年度			令和 3年度		令和 4年度	
実施内容	政策 内容	金額(千円)	政策 内容	予算額(千円)	決算額(千円)	政策 内容	金額(千円)	政策 内容	金額(千円)
	学芸員室・多目的ホール非常灯修繕	259	＊ 非常ロドアノブ修繕	157		展望テラス鳥水飲み場修繕	150	＊ 長寿命化計画個別施設計画（設計）	10,550
	防火扉非常電源バッテリー交換	87	＊ 博物館入口柱用看板取付枠設置委託	66		展望テラス庇排水溝修繕	50	＊ 自動ドアセンサー修繕	184
						非常用照明の修繕	350	＊ 内装修繕	550
予算(決算)額	合　計	346	合　計	223		合　計	550	合　計	11,284
(9)財源内訳 国庫支出金	補助率 0 %	0	補助率 0 %	0		補助率 0 %	0	補助率 0 %	0
県支出金	補助率 0 %	0	補助率 0 %	0		補助率 0 %	0	補助率 0 %	0
起債	充当率 0 %	0	充当率 0 %	0		充当率 0 %	0	充当率 0 %	0
一般財源		346		223			550		11,284
その他の財源	□特会 □受益 □基金 □その他	0	□特会 □受益 □基金 □その他	0		□特会 □受益 □基金 □その他	0	□特会 □受益 □基金 □その他	0
(10)人件費等 換算人数(人)		0.23		0.23			0.23		0.23
正職員人件費		2,024		2,001			2,001		2,001
嘱託職員報酬額		0		0			0		0
臨時職員賃金額		0		0			0		0
事業費(予算(決算)額＋正職員人件費)		2,370		2,224			2,551		13,285
(11)単位費用（事業費／活動結果指標）		0.06千円／人		0.06千円／人					

２．事業の評価(DO+CHECK)

評価項目	事　前　評　価	事　後　評　価（評価結果に応じ、改善案検討（拡充も含む））	改善検討
必要性 (1)事業が今必要である理由・背景は？(事業の必要性)	平成2年に開館した博物館は非常灯、トイレなどの交換修繕が必要である。施設を耐用年数まで活用するためには適切な維持管理・更新・改修が欠かせない。	○①事前確認での想定どおり ○②事前確認での想定どおりでなかった ＜想定どおりとした理由／想定どおりでなかった原因＞	○要 ○不要
必要性 (2)市が実施する必要性はあるか？(市実施の必要性)	○①民間企業、ＮＰＯ、市民団体等では実施できない （理由）□法令等で市が実施することが定められている □提供主体が市しかない □その他 ＜その他の内容＞ ●②自治体である市が推進すべきである （理由）□市が主導で進めることにより実効性が得られる ■市が実施・提供することにより、良質で安定したサービスが保証される □市が支援することにより政策・施策の目標の実現が図られる □その他 ＜その他の内容＞	□①民間企業、ＮＰＯ、市民団体等では実施できなかった □②市が主導で進めなければ実効性がなかった □③市が先導役となったことで市民へ普及が一層促進された □④市の支援が政策・施策の目標の実現に貢献した □⑤サービス水準が確保された □⑥サービスの安定供給基盤が確保された □⑦その他 ＜市実施の具体的な内容・必要性の理由＞ ＜その他の内容＞	○要 ○不要
参加・協働の工夫 市民の参加や市民との協働を工夫しているか？(体制づくり)	参加・協働の内容：○①事業計画時に市民の参画有り ●②事業実施時に市民の参画有り ○③管理・運営に市民の参画有り ○④市民の自主的な活動と連携している ○⑤市民と共同で事業を実施 ○⑥その他 ＜その他の内容＞ 工夫の具体的な内容：来館者の意見を反映した品揃えを考慮し、販売している。	実施した参加・協働の具体的な内容（又は今後、参加・協働が考えられる場合にはその内容） 参加・協働の程度・内容：○①当初期待した以上 ○②当初期待したとおり ○③当初の期待以下 ＜期待した以上となった理由／期待以下であった原因＞	○要 ○不要
環境への配慮 環境に配慮して事業を進めているか？	配慮の視点：□①自然環境を生かしている □②生き物と共存している □③手賀沼を意識している ■④環境負荷低減に貢献している □⑤その他 ＜その他の内容＞ 取組む内容：できるだけ自然素材のグッズを選び、販売している。	実施した具体的な内容 環境への配慮：○①想定どおり ○②想定どおりでなかった ＜想定どおりでなかった原因＞	○ 要 ○ 不要

効率性

	現況値(a)(人)	目標値(b)(人)	目標値の妥当性のチェック	達成状況 実績値(f)(人)	達成率(%)(f/b×100)		
(1)目標設定は適切か？	33,195	37,000	□①客観的なデータ・事実に基づき設定している ■②現況値と比べ実現性が乏しい値ではない □③現況値との差が小さい値ではない □④適当な比較対象が有る場合、比較対象例における目標値(と現況値の差)と同等の水準である			○①目標値達成 ○②目標値未達成 ＜目標を達成した理由／未達成となった原因＞	○要 ○不要

(2)事業費削減の工夫をしているか？

対策実施による事業費削減 事業費(c)(千円)	事業費削減額(d)(千円)	実施予定の対策	実施状況 実績値(g)(千円)	対事業費(%)(g/c)×100		事業費の削減対策について	
2,224	146	□①国・県助成制度活用　□⑤ＰＦＩ等民間資本の活用 ■②現有体制での対応　□⑥受益者負担 □③維持管理費の削減策の実施　□⑦その他 □④民間委託			○①想定事業費未満 ○②概ね想定事業費以内 ○③想定事業費超過	○①事前の想定どおり ○②事前の想定どおりでなかった ＜想定どおり削減できなかった原因＞	○要 ○不要
事業費削減率(%) 6.16		＜削減の内容＞	＜超過理由等＞				

(3)目標値を実現する為に投じる事業費は適正か？(目標対費用)

目標値対事業費(e)	単位	費用単位	計算方法	達成状況 実績値(h)	対目標値(%)(h/e)×100			
1,663.67	人	10万円	●①単年度の指標：目標値×費用単位／事業費 ○②複数年度の指標：(目標値－現況値)×費用単位／事業費			○①目標値以上 ○②目標値と同程度 ○③目標値以下	＜目標値以上となった理由／目標値以下であった原因＞	○要 ○不要

３．事後評価

○現状どおり推進　○拡充　○縮小　○結合　○休止　○廃止　○事業手法見直し　○その他(事業完了など)

評価	評価コメント	改善策及び展開方向